

「腹部 CT 診断」

筑波大学助教授・放射線科 平松 慶博
東京女子医科大学講師・放射線科 河野 敦 共著
筑波大学講師・放射線科 黒崎 喜久
筑波大学講師・放射線科 斎田 幸久

聖路加国際病院院長
野辺地 篤 郎

この本は、平松慶博先生が、帝京大学以来の御弟子さんと一緒に書いたものであるということが、まず第一の特徴と言える。これらのお弟子さんは、それぞれにすばらしい道を経て来られた方々であるが、改めて平松先生がいかに良い教師であったかということを知らされた思いがする。

6 年前に、「腹部 CT スキャンの読み方」という本を出されて以来、更に症例を増やして、2,000 例に近いものの中から 336 例を選びすぐった由で、非常に多数の写真を使って、適切な解説と、単純撮影や血管撮影、更に超音波検査の画像も適宜に示しながらの説明によって、極め

て懇切丁寧な本に仕上げてある。

本書は、CT 装置の基礎的な解説に 40 頁近くが使われていて、次に、各部分ないし臓器の正常解剖から始まって、病的状態が症例によって示されるという形式で記述が進められている。

文献は、1983 年までの多くのものが、よく集められているが、外国のもの、特に英文が極めて多い。全部で 500 の文献の中で、日本語のものは、わずかに 28 にすぎない。読者が日本人であることを考えると、オリジナリティーもさることながら、それぞれの部門について、綜説的なものでもよいから、もう少し日本語の文献を加えて、更に勉強したい人

は、そこからオリジナルを読むように配慮してもよかったのではないか。そのほうが、広い範囲の読者に対して、一層親切ではなかったかと思う。

私のように、このごろは日常の診断業務から遠ざかっている者にとっては、特に目新しく思える写真も多い。写真版の出来は大変良いが CT の画はいろいろな装置のものが混じっているために、多少のばらつきがあるのは止むを得ないことと言えるだろう。

何はともあれ、これだけ沢山の臓器についていろいろな症例がみられるのは、著者の方々がすべて、第一線の現場で活躍しているからなのであろう。そのために、大変ためになる本になっていて、これは、腹部 CT の診断をこれから勉強しようとする人のすべてにお薦めしたいものである。もし、この本を読んで、少しも新しいことがないと思った人は、腹部の CT 診断は卒業であると言ってよからう。

B 5 判 364 頁 図 36 写真 728 原色図 6
色図 1 1985 年 ¥ 18,000 円 400

医学書院 刊